

チームケア論

単位数（時間数）：1 単位（15 時間） 必修/選択：選択 履修年次：2 年次 開講時期：後期

科目責任者（職位・氏名）：非常勤講師・相澤出

科目担当者（職位・氏名）：講師・上田耕介、助教・佐藤大介、助教・太田ゆきの、
助教・新沼伸子

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢

看護の基礎的・専門的知識と技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：38

■ 授業概要

現代の医療では、心身の疾患の治療にとどまらず、生活・人生の質（QOL）の維持・向上といった、総合的な目標をめざしてケアが行われている。さらに看護師の活躍の場は、病院だけでなく、生活の場、地域の中にも一層の広がりを見せており、そこでは多（他）職種との協働が欠かせない。そこで本講義では、ケアチームの一員として、地域包括ケアの担い手として、医療関係の他職種はもとより、福祉など医療以外の多（他）職種と協働できる能力を養うべく、医療社会学の基礎、医療や福祉の現場でのチームケアの具体例の紹介、解説を行う。前半は理論的な視点について解説を行い、後半では、看護の現場での実際の取り組みについて解説を行う。これらの学習を通して、ケアチームの一員としての役割、チームや協働のあり方を考察する視点の修得を促進する。

■ 到達目標

1. 現代社会における組織、専門職、医療の場の特徴について説明できる。
2. チームケアが必要となった社会的背景を説明できる。
3. 現場によってチームの一員としての看護師の働きに多様性があることを理解できている。
4. 多様な現場のあり方に応じたチームの形成が必要であることを説明できる。

■ 教育内容

健康支援と社会保障制度

■ キーワード

連携、疾病構造の変化、患者、生活、ケアの場、専門性、地域包括ケア、QOL

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

回	授業項目	授業内容・授業方法	担当
1	チームケアへの視点（1）	はじめに・疾病構造の変化・現代の医療におけるチームケア	相澤
2	チームケアへの視点（2）	専門職とその組織	相澤
3	チームケアへの視点（3）	病いを患った人とケア	相澤
4	チームケアへの視点（4）	ケアの場への視点	相澤
5	チームケアの実践（1）	生活者からの視点	上田、 太田
6	チームケアの実践（2）	看護管理者からの視点	上田、 ゲスト
7	チームケアの実践（3）	手術室看護師からの視点	上田、 佐藤
8	チームケアの実践（4）	病棟看護師からの視点	上田、 新沼

■ 履修条件

特になし

■ 成績評価方法

講義中の小課題・小レポート（50%）、期末試験（50%）によって評価する。

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

コメントペーパーを用いて、学生からの質問に対して講義中に応答する。

■ 教科書

講義は、講師が用意した資料によって行う。

■ 参考書・参考資料等

講義において適宜文献を紹介する。

『デジタル ナーシング・グラフィカ』メディカ出版も、関係個所を講義中に参照することがあるので、必携である。

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

受講後、講義内容のふりかえりを1時間程度すること。この他、講義の前後に予習・復習の課題を提示することがある。

■ 担当教員からのメッセージ

現代社会ではケアの目標が総合化しつつあります。それゆえに、さまざまな職種の人たちとチームを組むことが不可欠になっています。このようにケアに関する領域で、チームが必要とされるようになった理由としての歴史的な背景、社会（そして、社会的営為としての医療）の変化にまで踏み込んでいきます。「チーム医療」という論点から、ケアの現場でのチームのあり方から、現代社会の構造的な特徴まで、幅広く考えることができる講義です。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

連絡先は講義の際に伝達する。講義の前後の休み時間にも、質問等を受け付ける。

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

科目責任者は医療法人で常勤職（研究員）として職務に従事していた。担当教員は、看護師としての実務経験を有する。

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

有

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

ゲストは現在も医療機関で看護職として実務に従事しておられる。

■ 実務経験を活かした教育内容

科目責任者は医療法人における勤務経験、その際の研究活動を踏まえながら講義を行う。各科目担当者およびゲストは、各人の現場での経験を踏まえた講義となる。